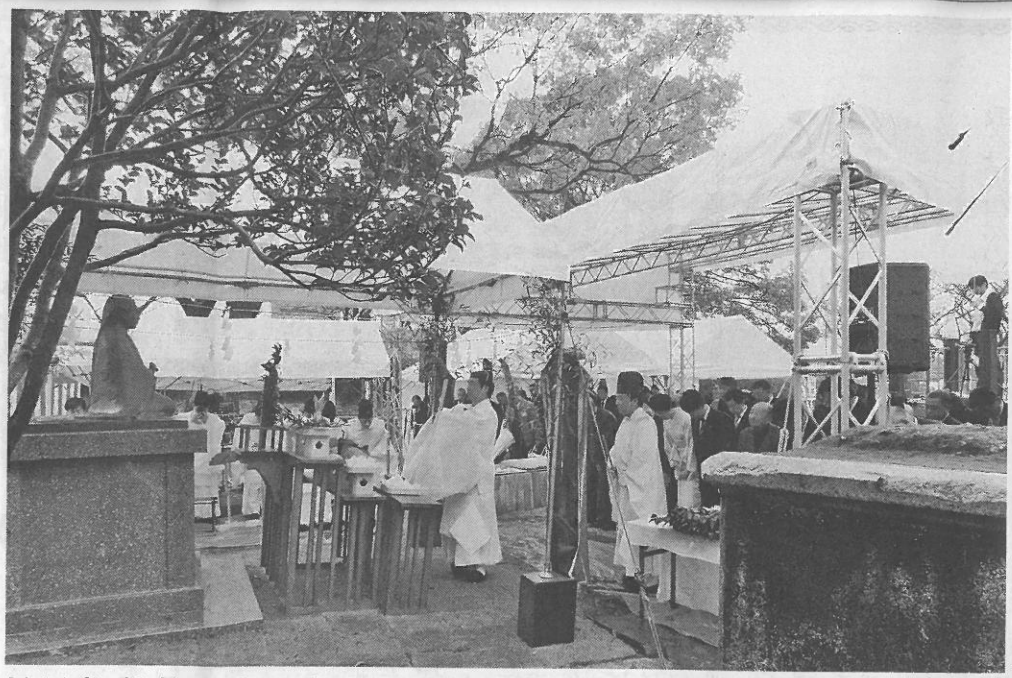
乃木大将夫人の銅像復元

百年祭機に結成の有志ら

【鹿児島】乃木希典大将の夫人・乃木静子の生誕地である鹿児島市で昨年十一月二十七日、乃木静子夫人奉賛会（平瀬葉子会長）主催、県神道青年会（茶木俊介会長）共催による「乃木静子夫人銅像建立除幕式」が執りおこなはれ、静子夫人に縁の人々や地元の住民など県内外から約三百人が参列した。



大正元年九月十三日、明治天皇の御大喪にあたり乃木大将とともにその御跡を慕ひ自刃した静子夫人。生誕地の同市新屋敷町では大正八年、遺徳を顕彰して座像（高さ一・二メートル）が創建されたが、先の大戦中に軍事資材として徴収されたと伝へられてをり、台座のみが残されてゐた。

地元有志のあひだで銅像の復元を求める声が聞かれるなか、平成二十四年九月十三日に神青会が台座前で「乃木静子刀自命遺徳顕彰百年祭」を斎行。この祭典が契機となり、県議会議員や市議会議員、町内会長ら約二十人の有志が奉賛会を結成した。

奉賛会はこれまで、街頭での趣意書配布や募金活動、定期的な講演会などをおこなひ、昨年十月までに目標募金額の一千万円近くを確保。十月二十九日に「建立安全祭」を斎行し、建設工事に着手してゐた。

縁の人々参列し厳かに祭典斎行

除幕式当日は生憎の雨天にも拘らず、種子田敬県神社庁長はじめ島津修久照國神社宮司、加藤司郎乃木神社宮司、渡健二那須乃木神社宮司、神道青年全国協議会顧問の大野清徳帯廣神社宮司ら多くの斯界関係者が参列。また、三反園訓県知事や山東昭子参議院議員のほか、静子夫人の血縁にあたる湯地定郎氏、湯地喬之氏らとその親族、大正八年に銅像を創建した村野山人翁の子孫である村野利昭氏、村野誠一氏らも駆け付けた。

奉賛会代表者や湯地・村野両家の子孫によって覆幕が取り除かれた銅像を参列者が拍手で迎へたのち、斎主の宮田昇神青会顧問はじめ会員十人が奉仕して祭典を斎行。祝詞奏上ののち、薩摩士魂の会（森園安男代表理事）の中村光彩氏が薩摩琵琶による「乃木静子夫人」の弾奏を奉納した。

午後からは、市内のホテルパレスイン鹿児島で、約百五十人参集のもと記念式典を挙行。名城大学非常勤講師で戦記作家の久野潤氏が「乃木静子　聖将を支えた生涯」と題して記念講演をおこなった。

奉賛会では、静子夫人の生立ちを分かりやすく解説した『乃木静子小伝』（著・田村省三尚古集成館館長）を昨年九月に刊行。今後、銅像の維持管理のため、当面は募金事業を継続する方針だといふ。

乃木静子夫人銅像建設まで

乃木静子（幼名・湯地お七）は安政六年（一八五九）十一月二十七日、薩摩藩医であった湯地定之・貞子夫妻の四女として現在の新屋敷町に出生し、幼少時代をこの地で過ごした。明治五年十一月、長兄・定基（後の元老院議官、貴族院勅選議員）の計らひによって一家は東京・赤坂区の屋敷に転居。その後、乃木希典と結婚する。大正元年九月十三日、明治天皇の御大喪にあたり乃木大将とともにその御跡を慕ひ神去られた。

静子夫人の生涯に感銘を受けた実業家・村野山人翁夫妻が私財を投じ、大正八年、生誕地に銅像を建設。資料によれば、当時の除幕式には貴族院議員の島津長丸男爵ら錚々たる顔ぶれが列席したといふ。

モンテディオが今季必勝を祈願

諏訪神社

【山形】山形市の諏訪神社（澤村禎三宮司）で一月十五日、サッカーJ2リーグに所属するモンテディオ山形の必勝祈願が執りおこなはれた。

当日は氷点下六度と冷え込むなか、選手やスタッフ約五十人が社頭に参集。修祓、祝詞奏上、玉串拝礼ののち、選手らが巨大絵馬にサインと抱負を書き込んだ。

モンテディオ山形はJ1昇格を果たした平成二十年に同神社で必勝祈願をおこなってをり、以来毎年欠かさず祈願に訪れてゐる。同チーム運営会社の森谷俊雄代表取締役社長が記した「J1へ絆」の文字を中心に選手たちが思ひを認めた巨大絵馬は、しばらくの間拝殿の前に掲げられるといふ。

（吉村展彦通信員）